

大津企業景況調査報告書

(第100回)

令和5年 1月～3月期 実績

令和5年 4月～6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和5年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社にオンライン並びに FAX による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
製造業	12社	10社	83.3%
卸売業	13社	9社	69.2%
小売業	25社	17社	68.0%
サービス業	31社	20社	64.5%
建設業	19社	15社	78.9%
合計	100社	71社	71.0%

3. 調査期間

調査対象期間は令和5年1月～3月とし、調査時点は令和5年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は全体で足踏み状態も、業種によりまだら模様

令和5年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の±0から今四半期は▲1となり、足踏み状態となっている。業種別では、製造業が前期の▲33から大幅に改善して+10となったほか、建設業も▲7から+7へと、いずれもプラスに転じた。サービス業も▲4から±0へと改善した。一方で、前期に大幅改善した卸売業は+29から▲22へと反転悪化し、小売業も+17から▲6へとマイナスに転じており、前期同様、業種により業況判断は明暗が分かれる状況となっている。

先行きの業況判断DIは、全体では今四半期の▲1から来四半期は▲6へと小幅悪化するとみている。建設業が今期の+7から▲27へ、製造業も+10から▲10に再び悪化するとみており、先の見通しも業種により楽観と悲観が入り混じる状態となっている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では足踏み状態も、業種により改善と悪化が分かれる

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、全体で足踏み状態となった。コロナ禍の収束で経済活動の回復が進んだこともあり、製造業で+43 ㊦の大幅改善があり、建設業で+14 ㊦、サービス業で4 ㊦の改善がみられた。一方で、原材料コストや人件費の増加に苦しむ卸売業は+29から51 ㊦悪化して▲22へ、小売業も+17から23 ㊦悪化して▲6へと、再びマイナスに転じた。

□ 売上DI（前年同期比）は、全体でプラス状態を維持も、サービス業のみマイナスが継続

「前年同期比でみた売上DI(全体)」（「増加」－「減少」）は、前四半期の+13から今期は+11へとプラス状態が続いている。業種別では、サービス業のみ▲13から▲15へとマイナスが続いているが、その他の業種ではプラス状態が続いている。

□ 採算DI（前年同期比）は、小売業・建設業で悪化も、他業種で改善し、特に製造業で顕著

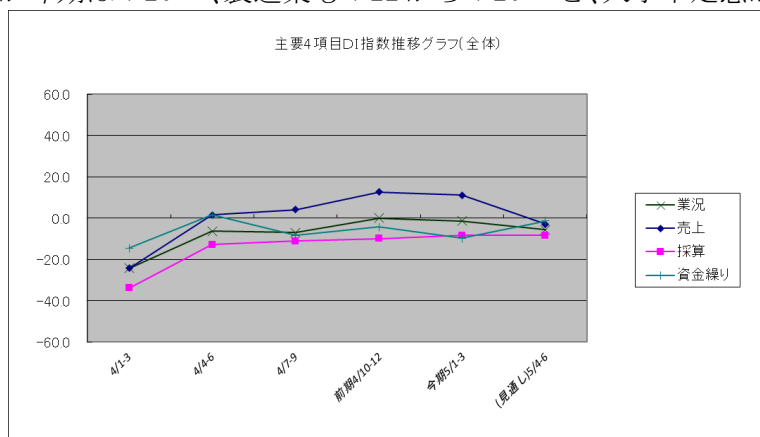
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲10から今期は▲8へと、全体としては足踏み状態だが、業種により濃淡がある。小売業では+6から▲17へとマイナスに転じたほか、建設業も▲7から▲13へと悪化した。一方で、製造業は▲33から+10へと大幅改善してプラスに転じた。卸売業も▲14から±0へと改善した。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、製造業は大幅改善も、全体としては悪化し、建設業で顕著

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲4から今期は▲10へと悪化した。特に前期に改善した建設業が▲20へと再び悪化し、非製造業の卸売業、小売業、サービス業も押しなべて悪化した。売上や採算の伸び悩みや材料コスト高や価格転嫁に悩む業種は運転資金の確保に向けた資金繰りに苦勞している様子もうかがえる。一方で、売上や採算DIが大きく改善した製造業では▲33から±0へと大幅に改善した。

□ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足感はやや緩和するも、建設業・卸売業は逼迫

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+30から今期は+26へと人手不足感はやや緩和しているものの、依然として建設業では+43から+47へ、卸売業では+14から+33へと、人手不足感が高まっている。一方で、前期に+39であったサービス業が今期は+20へ、製造業も+22から+20へと、人手不足感が緩和している。



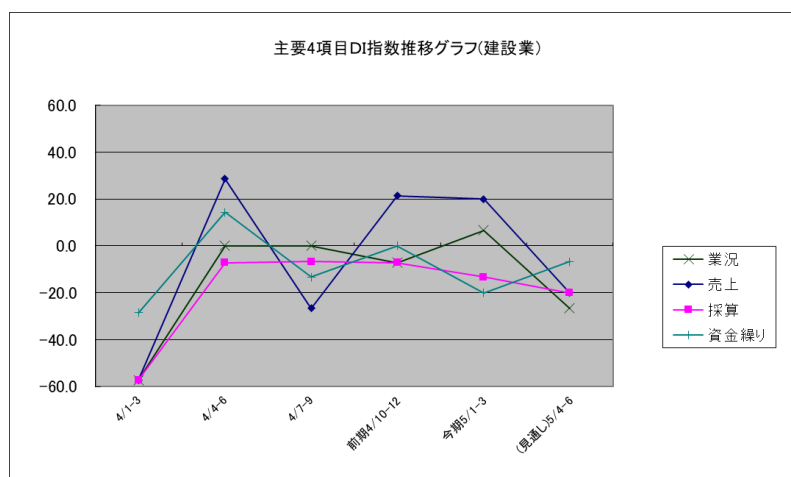
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲7 が今四半期は+7 へと改善し、プラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+21 から今四半期は+20 へと良好な値を維持している。「採算」については▲7 から▲13 へと悪化しているものの、採算の「水準」については+21 から+47 へと大幅な改善を示している。「売上」や採算の「水準」での楽観的な評価が全体として「業況」の判断に好影響を与えているものとみられる。

「資金繰り」については、前四半期の±0 から今四半期は▲20 へ悪化しており、売上増加による運転資金の確保に苦労している様子もうかがえる。

「従業員」は前四半期の+43 から今四半期は+47 へと逼迫感が増し、依然として慢性的な人手不足に苦労している様子うかがえる。

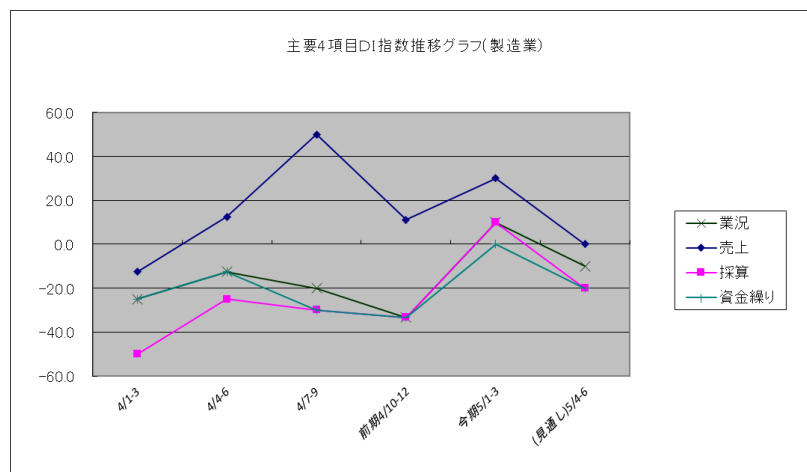
新型コロナ感染の収束による需要の回復が業況判断の改善につながっているものの、原材料や石油価格の高騰や慢性的な人材不足などが、先行きへの不安を与えている状況もうかがえる。



製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲33 から今四半期は+10 へと大幅に改善し、プラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は前期の+11 から+30 へとプラス幅が拡大している。「採算」についても▲33 から+10 へと大幅に改善している。全国的には長引く原材料高や世界経済の減速懸念を背景に製造業の業況が伸び悩む中、当地の中小製造業はなんとか活路を切り拓いて健闘しているものとみられる。「資金繰り」についても▲33 から±0 へと改善しており、売上増加と採算の向上が資金繰りに好影響を与えている様子うかがえる。

「従業員」については、前四半期の+22 から今四半期は+20 となり、人手不足感は若干緩和してきているとみられる。賃金の引き上げに努力している企業もある。

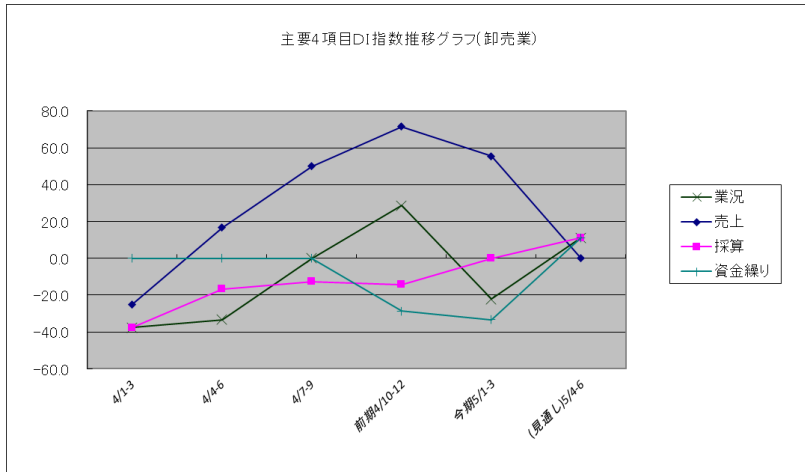


卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期+29 から今四半期は▲22 へと大幅悪化し、マイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+71 から今四半期は+56 となり、プラス幅が縮小した。「採算」については、前四半期の▲14 から±0 へと改善している。

「資金繰り」については、前四半期▲29 から今四半期は▲33 へとさらに悪化しており、売上減少に加えて仕入価格や人件費の増加、販売価格の転嫁遅れなどもあって、運転資金の確保に苦勞している状況がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+14 から今四半期は+33 と、人手不足感は再び高まってきているとみられる。



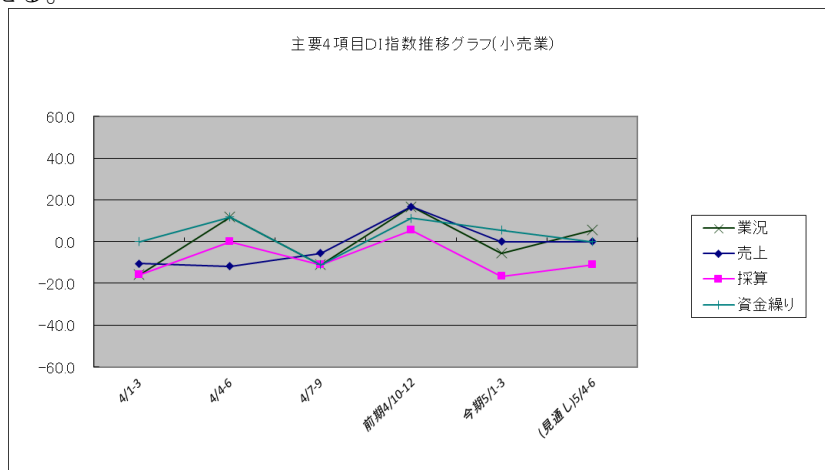
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+17 から今四半期は▲6 へと悪化し、再びマイナスに転じた。個別指標をみると、「売上」は+17 から±0 へと悪化し、「採算」についても+6 から▲17 へ、また採算の「水準」についても+22 から±0 へと悪化しており、売上と採算面の両面での悪化が業況判断 DI の悪化につながっていると思われる。

売上の伸び悩みや仕入材料の高騰に苦しむ中、一方では、「営業形態の見直しや販路開拓に向けた販売促進の実行、売店・ネット販売での需要確保、リピータのニーズの掘り起こしなど、顧客対応の取り組みを重視する」という積極的な動きも現場の声から聞こえてくる。

「資金繰り」は前四半期の+11 から今四半期は+6 へと若干悪化しており、売上と採算の悪化が資金繰りに影響している様子が見て取れる。

「従業員」は前四半期の+17 を今四半期も維持しており、人手不足状態は継続している様子もうかがえる。



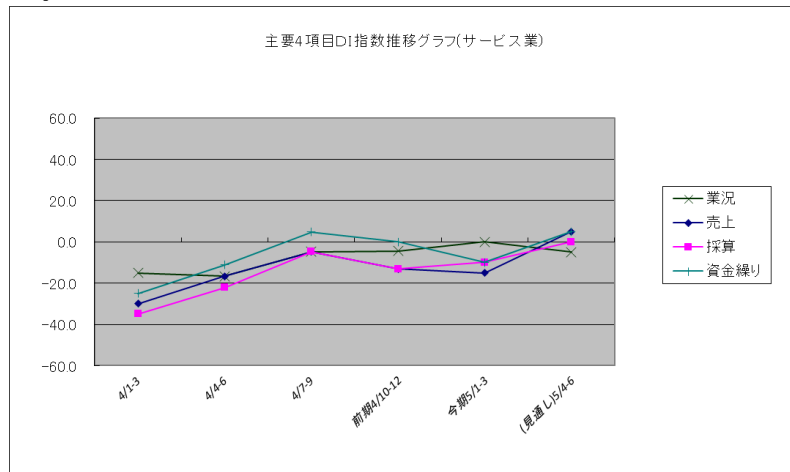
サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲4 から今四半期は±0 へと改善している。個別指標をみると、「売上」は▲13 から▲15 へと足踏み状態となっているものの、「採算」については▲13 から▲10 へ、採算の「水準」についても+17 から+25 へと改善しており、これらの改善の兆しが「業況」の判断に影響しているとみられる。

「資金繰り」については前四半期の±0 から今四半期は▲10 へと悪化している。

コロナ禍の収束で経済活動の再開が進み、サービス業でも復調の兆しが見える中、事業に必要な資材価格や燃料費が高騰する一方で、価格転嫁に苦勞している様子もうかがえる。

「従業員」は前四半期の+39 から今四半期は+20 となり、人手不足感は緩和してきている様子もうかがえる。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲1 から▲6 へと悪化するとみている。個別指標をみると、「売上」は+11 から▲3 へと悪化するとみている。「採算」については▲8 を維持するものの、採算の「水準」については+21 から+25 へと小幅改善するとみている。「従業員」については+26 から+29 へと、人手不足感は若干高まるとみている。令和5年1月の滋賀県全体の有効求人倍率は1.2倍付近を推移しているが、建築・土木関係では4.3倍、接客・給仕では3.4倍になっており、業種により状況が異なることに注意が必要である。

業種別の「業況」DIでは、今期改善を示した製造業や建設業、サービス業は一転して、製造業は今期の+10 から▲10 へ、建設業は+7 から▲27 へ、サービス業は±0 から▲5 へと悪化するとみている。一方で、今期大幅悪化した卸売業は▲22 から+11 へ、小売業も▲6 から+6 へと改善するとみており、四半期ごとに業況判断が揺れ動く不安定な状況となっている。

コロナ禍の収束後の経済の活発化による業況改善の動きがある一方で、ウクライナ情勢や世界的な原油や原材料、エネルギー費の高騰による仕入価格の上昇や、販売価格への転嫁遅れなどにより、依然として業種や業態ごとに先の見通しが揺れ動いている状況が見て取れる。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は21%で、3ヵ月前の23%から低下しており、設備投資への機運はなかなか拮がらない状況となっている。業種別では、製造業が3ヵ月前の44%から今期は30%と低下しており、サービス業も30%から15%へ低下している。一方で、卸売業では14%から33%へ、建設業も14%から27%と上昇しており、業種によっては設備投資意欲の回復の兆しも見て取れる。小売業では11%を維持している。

投資内容の割合は、「設備更新」が53%で最も多く、老朽化設備の入れ替えは必要と判断していると思われる。「生産力増強」については3ヵ月前の16%から今期は29%となり(特に製造業では67%)、需要の回復に向けての対応も見て取れる。「合理化・省力化」については、3ヵ月前の30%が今期は6%となり、生産性の向上に結び付く投資は手が付けられにくい現状もうかがえる。

一方で、投資方針は「計画通り」が3ヵ月前の75%が今期は67%となり、「景気により見直す」が19%から27%となり、先行きに不安を覚える事業者が増えている様子もうかがえる。

MBA・中小企業診断士 松島 明男

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・従業員の生活圏における物価上昇に伴い、臨時的に給与を5%UPしました。資金面で余剰金がある訳ではないが、従業員が会社を信用してくれているなら、会社も従業員を信じたいです。世の中が好転するのは、まだまだ先だと思いますが、企業として生き抜くためには、社内の団結が必要な時だと思えます。(製造業)
- ・物価高騰、人件費高騰が一度に押し寄せ販売価格の転嫁に対応できない。(卸売業)
- ・客足は戻ってきているが、原材料等の値上げにより利益が減っている。(小売業)
- ・材料の仕入れ価格が高騰しています。その話の中で、「絶対量の不足による値上げでもあるが、昨年の使用量は確保します。」という、流通業者さんの言葉はありがたい。普段のお取引からいただける言葉と思えます。時代の変化の中でも、大事に貫きたい信頼関係と思いました。経済情勢の変化のなかでも、一貫性は大事だと思えます。(小売業)
- ・当店は商店街の中で営業しておりますので、それぞれの店が店の都合で日曜日に休む店もあれば、その他に休む店があるのは仕方がないでしょうが、商店街で商売をやっている以上大型店は必ず営業していますので、対抗上もその時に応じて日曜営業が必要と思えますが、中々それが出来ないのが頭痛の種です。(小売業)
- ・営業形態のまとめと販売促進の方策と実行。需要の停滞の回避への方策、動き顧客の確保、売店、ネットでの需要確保、リピータとのニーズの掘りおこし、顧客対応の取り組みを重視。(小売業)
- ・これ以上悪くならないように期待したい。4月以降そして5月連休後は活況になることを期待する。(サービス業)
- ・新型コロナが収束に向かいつつあるが、未だ原材料の不足、燃料費の高騰は払拭出来ていない。今後さらに価格上昇は進むと思われるので、いかに価格転嫁していくかがカギとなるだろう。(サービス業)
- ・我々旅行業は全国旅行支援で動きが見られた、また、滋賀県のバス補填事業で利用もあり、売上げが戻った様に見えていますが、その補填金政策が終了後の動きは不安になるところです。また、全国旅行支援の手続きには零細企業には重荷でした。(サービス業)
- ・春のリフォームに期待する。木材等の負荷が単価の上昇が止まらない。(建設業)
- ・他府県の仕事が多いので、ガソリン高値は困ります。(建設業)

以上

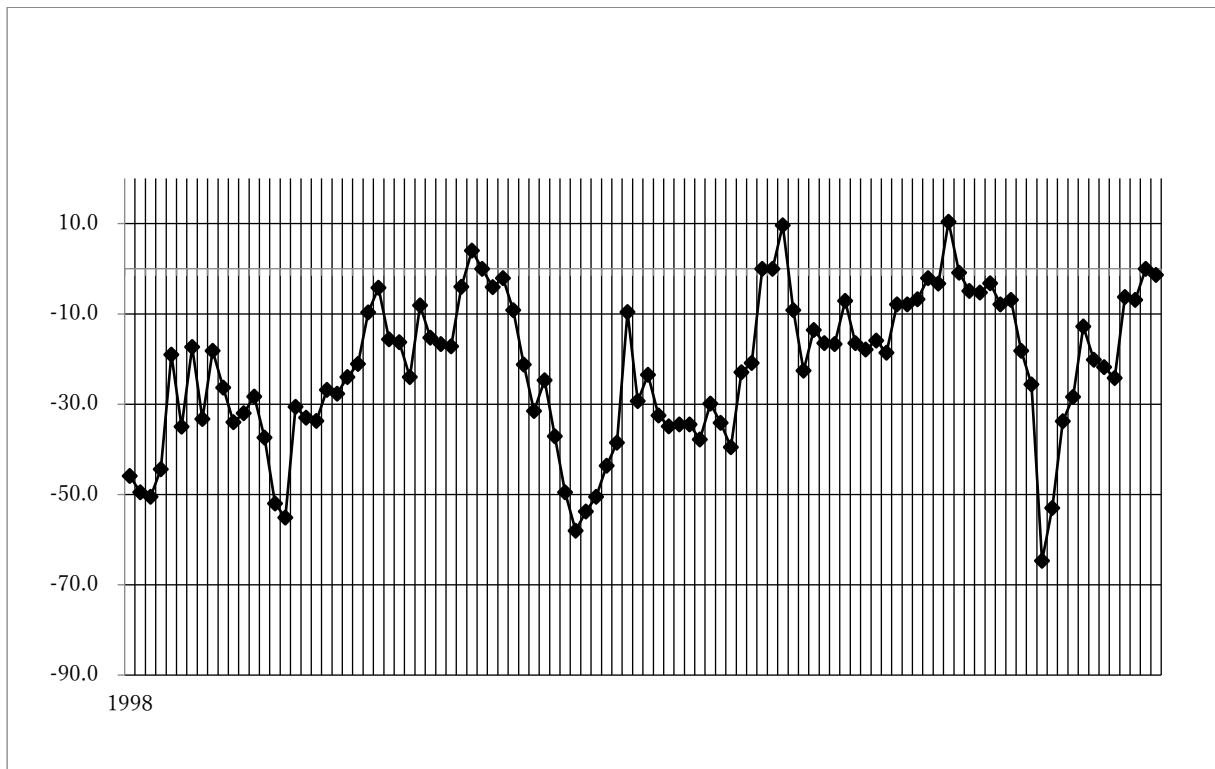
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲1.4	▲5.6	11.1	▲2.8	▲8.3	▲8.3
建 設 業	6.7	▲26.7	20.0	▲20.0	▲13.3	▲20.0
製 造 業	10.0	▲10.0	30.0	0.0	10.0	▲20.0
卸 売 業	▲22.2	11.1	55.6	0.0	0.0	11.1
小 売 業	▲5.6	5.6	0.0	0.0	▲16.7	▲11.1
サービス業	0.0	▲5.0	▲15.0	5.0	▲10.0	0.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	20.8	25.0	2.8	▲13.9	26.4	29.2
建 設 業	46.7	40.0	0.0	▲13.3	46.7	40.0
製 造 業	40.0	30.0	10.0	0.0	20.0	30.0
卸 売 業	▲11.1	44.4	▲22.2	▲22.2	33.3	33.3
小 売 業	0.0	0.0	22.2	▲22.2	16.7	22.2
サービス業	25.0	25.0	▲5.0	▲10.0	20.0	25.0
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲9.7	▲1.4	▲1.4	0.0	1.4	2.8
建設業	▲20.0	▲6.7	13.3	13.3	20.0	20.0
製造業	0.0	▲20.0	0.0	0.0	10.0	10.0
卸売業	▲33.3	11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1	▲11.1
小売業	5.6	0.0	▲5.6	0.0	▲11.1	▲5.6
サービス業	▲10.0	5.0	▲5.0	▲5.0	0.0	0.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>